

18
ADULTS
ONLY
成年向け



ユーシアは狐の仔だ。
いつものまにが僕の家
に住み着いた。
近所のおじさんに
聞いた話では
お稲荷様の使
らしいけれど
言葉は喋れないし
オツムの中身は
ただの犬としか思えない。
今日も本を読んでいる
僕の傍らで
寝たりうろついたり、
入ってきた虫を
追ったりしている。



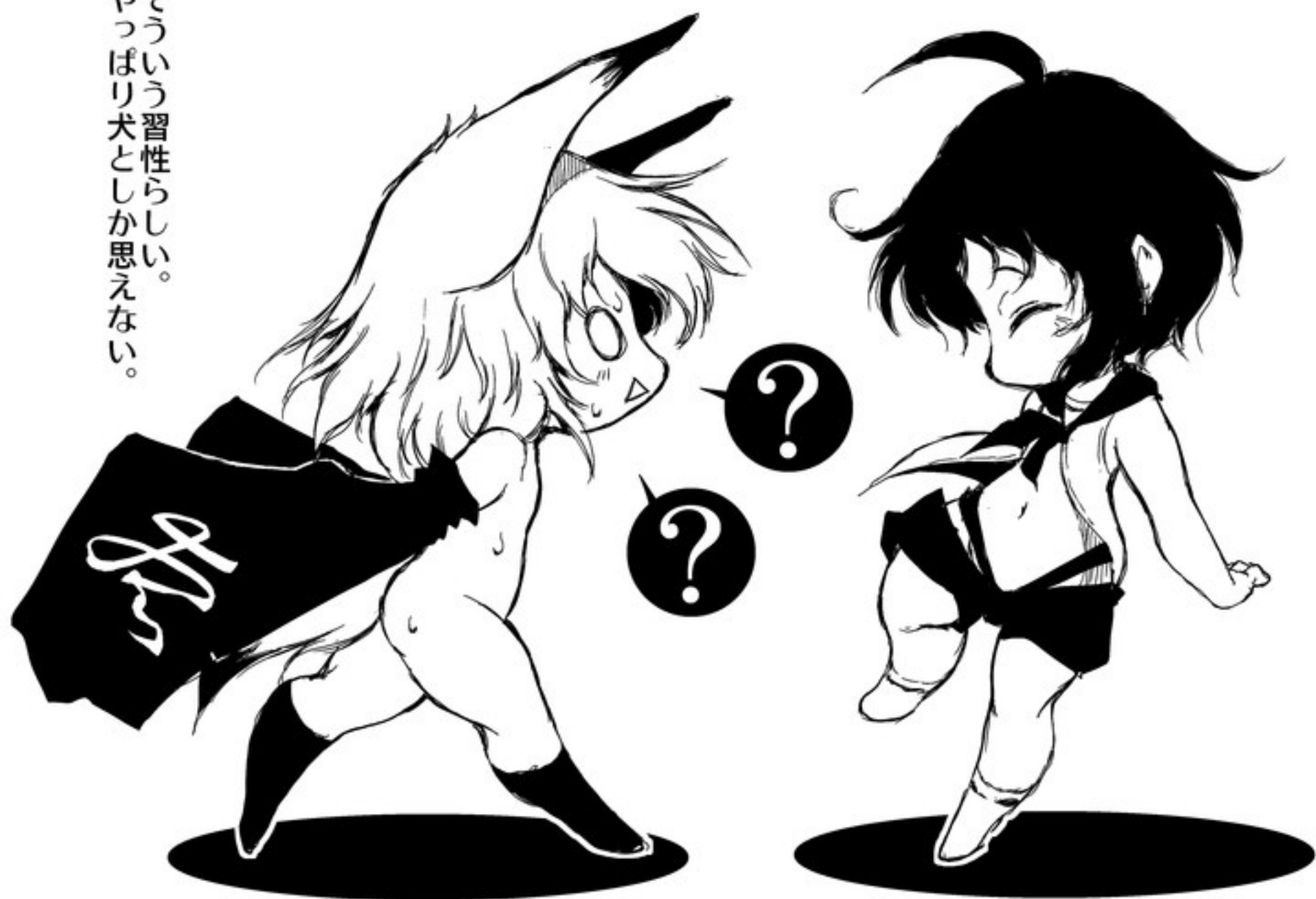
お、お





触ろうと思って
追いかけると逃げる。
僕が逃げると追ってくる。

そういう習性らしい。
やっぱり犬としか思えない。



大抵は部屋の隅で
時々寝言を言いながら
よだれを垂らして眠っている。
足を上に放り出して
手をおっちんして
眠っているのだけど
苦しくないんだらうか。

んん
ふっ

ズ
ズ



ユーシアは
狐だから
自分で服を着られない
おシッコやうんちの
時も困るから
いつもお股は丸出し。
眠っている
寝息に合せて
ぷにぷにの
微かに揺れる。
ママが

おん
ごっ

ある日ユージアが
いないなと思って探していたら
洗濯機の前でまだ洗っていたら
洗濯物を荒らしていた。

僕の靴下を啜えて
嬉しそうに噛み続けている。
僕の靴下の匂いかな。
気に入っているのかな。

時々鼻面を押し当てては
嬉しそうに顔をやる。

返してほしいけど、
どうしても返してくれない。





荒らされた洗濯物を
調べていたら
僕のお気に入りの
靴下がビリビリに
噛み破られていた。
僕はユージアに
破れた靴下を
押し付けて叱った。
ユージアはこで
部屋の隅に
僕の剣幕に
縮み上がって
しばらく叱って
身震いしてお
漏らしてしまっ
た。
僕は床に広がる
おシッコの水たまりを
拭き取るのなる。
大わらわになる。

叱られた後でも
散歩に行くよと声をかけると
シッコポを振って近寄ってくる。
首輪とリードを付けて
近所をお散歩する。
電柱を見かけると
しばらく嗅ぎ回った後、
片足を上げておシッコをする。
やっぱり犬なんじゃないかな。
真剣な顔で電柱に
おシッコをかけている
ユージアはヘンテコで
なんだか僕は笑ってしまう。



散歩から帰ると次の運動の時間。

汗ばんだ服をはだけると
ユージアは僕に飛びついてくる。

ユージアのおちんちんは
もう勃ち上がっていて
先っぽから透明なおつゆが
溢れている。

僕のおちんちんに氷音をたてで
擦り付けられると
僕のも硬くなってしまう。

本当はこんな事をしちや
いけない気がするんだけど
ユージアの表情はこれを
「気持ち良い、楽しい事」としか
思っていない風で

顔を寄せて鼻といわず
口といわず舐め回しながら
嬉しそうに僕のおちんちんに
自分のを擦りつけてくる
ユージアを見ると
そんな事吹き飛んでしまう。



ユーゾアは僕の
おちんちんに顔を押し付け
フンフンと鼻を
鳴らしながら匂いを嗅ぐ。

ひと通り匂いを嗅いで
満足すると
今度はペロペロと
舐めまわし続ける。

柔らかいヌルヌルの
舌が気持ちよくて
僕は頭が真っ白になって
恥ずかしい声を上げながら
白いのを発射してしまう。

ユーゾアは飛び散った
僕のもの美味しそうに
床の上に散ったものまで
一滴残らず舐めとってしまふ。



毎日こんな事をしてるから
ユージアは次に何をやるのか
すっかり覚えてしまった。

四つん這いになって
後ろを向くと
お尻を上げてシッポを
激しく振って催促する。

シッポの下の
可愛らしいお尻の穴も
シッポの動きに合わせて
ヒクヒクと
開いたり閉じたりしている。

最近はおちんちんが
挿り易いよう
お尻の穴からヌルヌルの
おつゆも垂れてくるようになった。



僕のおちんちんを突き入れるとユーシアのお尻の穴は少し抵抗した後、二ユルつと根元まで受け入れてくれる。

暖かいユーシアの中のお肉におちんちんを包まれながら僕は夢中で腰を動かして出し入れする。

突き上げられる度にユーシアは鼻を鳴らして切なそうな声を上げてそれに合わせてユーシアのものもビクンビクンと脈を打つ。

お尻のあたりにシワっど感じる何かが絞り出すられるような感覚と一緒に僕はユーシアの中に白いのをいっばい注ぎこんでしまう。

同時にユーシアのおちんちんからも僕のと違う水っぽい白いおつゆが水鉄砲みたいに出した。勢い良く吹き出した。

あっ
あっ
あっ

ひっ

あうっ
あふっ

出るっ
でちやううっ!!



ご覧の通り
まこぶさんは
ギックリ腰で寝込んで
こんなべらい本しか
作れず餓死寸前
このみじめさ
ステキっ



いやもう三回目だから
対応は慣れたけど
この痛みいと凄まじき
どれくらいか
表現せよ

あまりの痛みに
コアファイターが
発進しそうなくらい
それ前も言ったし
返しも前使ったネタで
いいかしら

キングジョー

このネタ何年前のだったけ



散歩に
行きますよ
分かりました



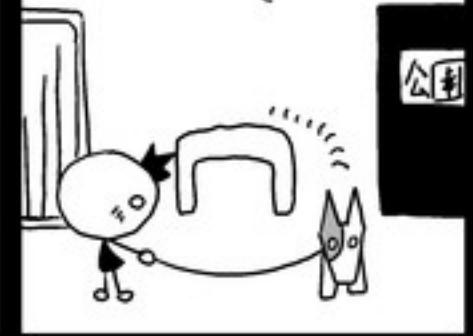
交差点では
一旦
止まりますよ
ご主人
うん、そうだね



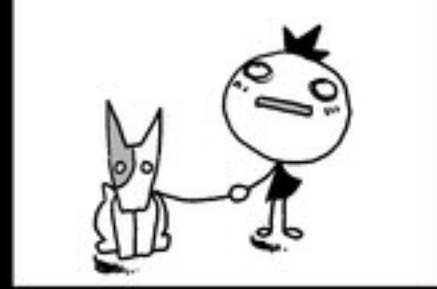
あっ車が
来ました
路肩に寄って
徐行ですよ
ご主人
うん、そうだね



車止めはくぐっちゃ
いけない
リードが引っかかって
ご主人
うん、そうだね



おまえ
つまんないヤツに
なったな……
何言ってるのか
分かりません
ご主人



犬の成長ってのは
早いなあ
もうすっかり
大人になっちゃって
何この長さ



でも寝ている人の耳に鼻先突っ込んで息を吹き込んでくる。

まこシラキューブアゲイン

ほほうまこぶさん
このペラい本で
まこシラ2ページ
ですかバカじゃ
ねーの

減ページですよ
通常4ページの所
なんと半分で
お送りします
ムダがない

しかも奥付
と合体



今まで20ページ以下の本は
まこシラ1ページだったし
倍になってるじゃないですか
うるせえ腰痛えんだよ
今回の本全部寝ながら
描いたよ椅子に座れねえんだ
もう下半身切り離してえ

ん
ん



本編も一枚絵並べだけの
やっつけ感アリアリ
今度こそおまえの作家生命
尽きたなザマあ
ああもう尽きてくれ表現規制は
厳しくなるし政治は庶民の財布から
金抜いて資産家と企業に金回す
事しか考えてねーし生きてて
ロクな事ねえです

ん
ん



うわ、こいつ体調崩すと
いつもこうだよ

そもそも私の寿命は35までで
残り時間はボクナタイムだと思つてんだ
いつ終わつたつて気にしねえですよ
大して嬉しくもないご褒美のために
必死に努力するよな精神は
なぜか持ちあわせてないんだ
楽しく生きられないならさっさと
おさらばしたい

ん
ん



大衆は豚だ！

おまえやめてホントそれやめて
元ネタ知らない人には
ただの人格否定だし
元ネタの人今福島関連で
大変な事になってんだろそれ



いろんなでそんな生きてる気が満
なでしようか一生涯懸命勤務した
所で大した収入になるでなしは
街けた梯子を外される事も多いで
その中で僅かばかりのご褒美のため
競争という名の他人の足の
必死にやっつけて何か楽しい
ドフ泥のような社会に放
いにしておいてエサにつ
られてどんな事でも聞くよう
しっておくことが権力を保つよう
前のコマの元ネタの男組のキャラのセリ
自分の周りを眺めてみれば実際そのと
なつてるとか思い込んでみればど
エサの奪い合いだわ私に取られた人
得いみたいないな思考マジで私には
るですよどようか私にそれができる
じようがたりしようか私にそれが
しよみがありましてがどうも
か間片隅でエロ漫画描いて遊んでるだけ
かなーみみまいな心地です最も一
か

止めてー！
誰かコイツ
止めてー！
止めてー！



プリーズ黄色い救急車

ま、落としたり
読者さんに申し訳
立たないのでちんこ
がんなばります

こいつから
ちんこ取つたら
何も残らないし



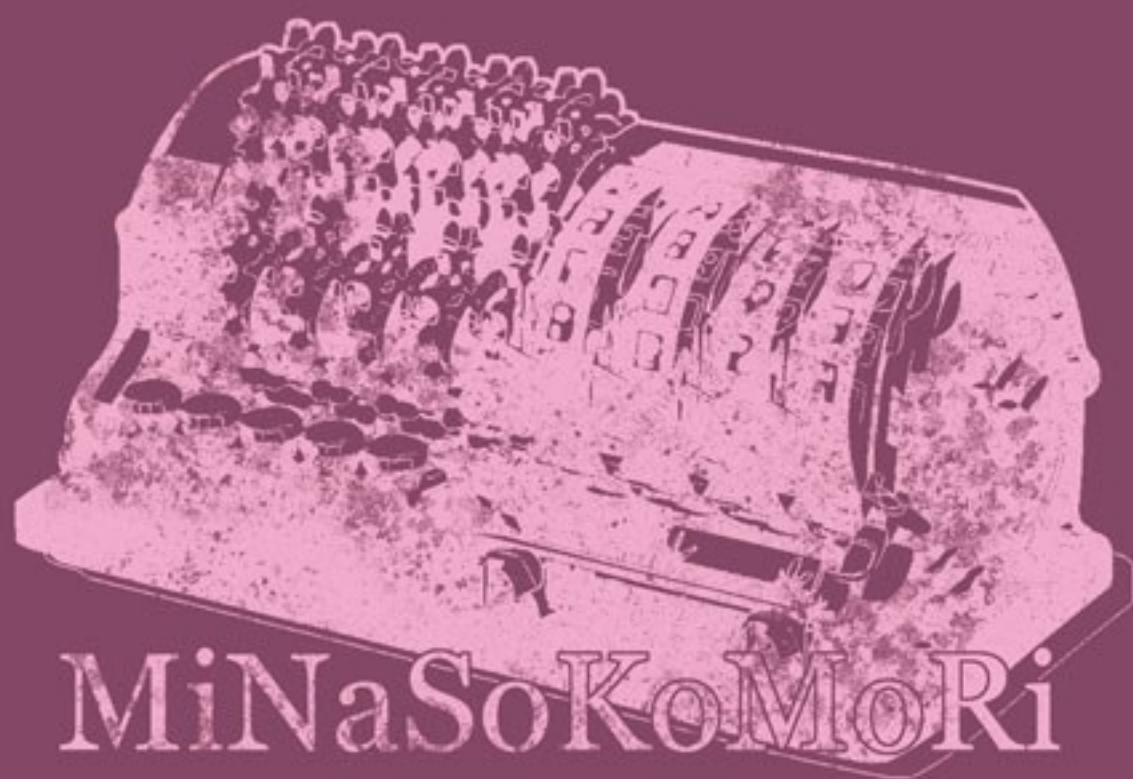
唐突の



達人ボムエンド

◆奥付◆

- 【タイトル】 宇迦狐
- 【発行日】 2014, 8/17
- 【発行者】 サークル水底森 Macop. (まこぷ)
- 【印刷】 丸正インキ
- 【Web】 <http://macop.neko.ne.jp>
- 【E-mail】 macop@live.jp



MiNaSoKoMoRi